

(様式3)

令和7年度 みんなが主役！しまねの公民館支援事業 実績報告書

市町村名	安来市	公民館等の名称	広瀬交流センター
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・古くなった横断旗入れ箱を更新してきれいにし、町を美しくする。 ・自分たちで作る楽しさを体験し、自分たちが出来ることを増やす。 ・地域住民（大人・子ども）の交通安全の意識を向上し、安心・安全に暮らせる町をつくる。 ・多世代が交流し共同作業を行うことで、顔が分かり挨拶が交わせる関係性をつくる。 ・地域の団体や集団の横のつながりを広げる。 ・自分の行動が地域社会（自分以外の誰か）の役に立つ喜びを感じる。 		
事業の実施期間	1年目・2年目		
事業の内容	<p>○事業の対象 参加者合計 41名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広瀬小学校区内の小学生と保護者（自治会親子会） 参加者 子ども 年中児～小学6年生 12名 保護者 9名 ・地域住民（自治会、見守り隊※、学校運営協議会委員、中学生ボランティアなど） 参加者 自治会 3名、商工会青年部 4名、交友会※（見守り隊含む）4名、駐在所1名 学校運営協議会 3名（学校長、社会教育委員、主任児童委員） 中学生ボランティア 2名 交流センター3名 <p>※見守り隊：小学生の登下校の見守りを行う地域住民のボランティア ※交友会：・・・地域の交通安全に関わる地域活動団体</p> <p>○活動の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年12月7日に、広瀬交流センターを会場とし、親子、地域の人たちと一緒に木製の横断旗入れ箱を作成した。子ども達の登下校通学路を中心に、危険箇所を確認しながら自分たちで作った旗入れ箱を設置する。（設置予定日3月15日） <p>[集うためのしかけ・工夫]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の対象として、自治会単位の親子会に声かけし、親子会活動と併せて行った。 ・親子会から自治会の役員へ、小学校から、学校運営協議会委員への声かけをしていただいた。 ・交流センターから、交友会（見守り隊含む）、駐在所、中学生への声かけを行った。 ・地元木工所の若手職人来てもらい、木の特徴や道具の正しい扱い方などを教えていただいた。 <p>[楽しむためのしかけ・工夫]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが普段あまり使わない道具を使い自分で作る工作体験であることから、子ども達が前のめりに取り組んでいた。その様子から、作る楽しさや出来た達成感に喜びを感じていることが伝わってきた。また、子ども達の様子を間近で見ていた大人達も一緒に喜びを共有されていた。 ・予備の材料を使って、大人が子ども以上に工作を楽しむ様子が見られた。 ・工作終了後、駐在所から問題を出してもらい『交通安全クイズ大会』を行った。低学年の子ども達も積極的に参加していた。答えが正解だったとき、間違っていたときの様子など、子どもらしい様子に場の雰囲気が和み、良いコミュニケーションの場となった。また、大人でも迷う問題があり、子どもだけでなく大人も学ぶことがたくさんあることへの気づきもあり、交通 		

安全への意識を高める場になった。

・保護者からは、自分たちだけではなかなか出来ない体験活動だった。子ども達と一緒にものづくりが出来て楽しかったと感想があった。

○関係機関との連携（他館、他部局、公民館担当課との連携等についてお書きください）

・事業目的へ賛同いただいた地元の商工団体から一緒に活動したいとの申し出があり、活動の輪が広がった。子どもとの活動を起点として、様々な世代、職業、団体の住民が交流し、今後のつながりや関係性を構築する場となった。

・小学校を通じて学校運営協議会、PTA、児童への情報共有を行い、活動参加者以外の学校関係者との意識共有を図っていただいた。

・自治会や交友会、見守り隊への情報共有を行い、活動参加者以外の地域住民との意識共有を図ることができた。



活動の様子
などを周知
した方法

- 1 館報
- 2 公民館ホームページ
- 3 SNS
- 4 その他（具体的に 小学校の集会、学校だより、ホームページ）

成果・効果
課題
今後の見通し

・幅広い世代の大人と子ども達が一緒に活動する中で、普段直接子ども達と関わりがない大人が地域で子ども達が育っていることを実感する機会となった。また、共同作業をする中で、子どもたちの体験機会が減少していることを共通認識として持つことが出来た。

・子ども達は、親以外の大人からも声を掛けてもらい、手助けをしてもらいながら箱を完成させていた。様々な人との関わりの中で達成感が生まれ、子ども達の自己肯定感、自己有用感が高まったと感じている。世代間の相互理解を深めながらより良い関係性を構築していくことが地域の教育力の向上につながると考えている。

・工作の材料には、地元の山から切り出し製材した木材（杉）を使用した。参加者に紹介し、木に触れることで「木育」にもなった。活動を通じて、町の美観や森林に関心を持ち、身近にある社会環境や自然環境に関心を持つきっかけとなった。

・普段一緒に活動する機会の少ない団体や集団と一緒に活動することで、交流の輪が広がり新しいつながりが出来た。今後に向けての前向きなご提案やご意見も出ていた。地域住民が自分事として地域に関心を持って考え、自分たちの町を自分たちで良くしようという行動の積み重ねが地域の活性化につながると考える。

・次年度は、地区内の別の親子会等を対象として活動を行う予定としていたが、関わった方達のご意見をいただきながら次年度の活動を考え、関わる人の輪を広げていきたいと考えている。